

第 78 回 大腸癌研究会 ly, v 病理組織規約への導入プロジェクト

会議録

平成 25 年 1 月 17 日

主任研究者: 落合淳志 (国立がん研究センター東)

プロジェクト参加者: 秋葉純 (久留米大学) 長谷 和生、岩屋啓一、島崎英幸 (防衛医科大学校) 正木忠彦 (杏林大学) 久須美 貴哉 (恵佑会札幌病院) 堀口慎一郎 (都立駒込病院) 庄盛浩平 (鳥取大学) 九嶋亮治 (国立がん研究センター中央) 八尾 隆史 (順天堂大学)

【目的】

大腸癌におけるリンパ管(ly)及び静脈侵襲(v)は予後や転移と強く相関することが多くの論文で示されている。一方でその程度の評価は病理医間で差があることも分かってきた。大腸癌取り扱い規約において脈管侵襲の有無及び程度は 4 段階で評価されているが、その判断基準があいまいで精度管理がなされていないのが現状である。大腸癌研究会において、転移・予後因子としてのリンパ管・静脈侵襲程度の再評価(下田忠和委員長)を行い、ly, v の妥当な評価方法を検討した。本プロジェクトは 1) 下田班で検討された評価方法に基づいて評価方法を統一し、2) 多施設にて同評価方法の検証を行うことで、全国で利用される大腸癌取り扱い規約に反映させることを目的とする。

【議題】

現在までの結果

1. 第三回アンケートまでの結果を集計し、コンセンサスの得られた ly,v 判定基準を作成された。
2. その基準に基づいた判定を行った場合、Stage II 大腸癌における ly,v 判定一致率の向上がみられた。

今回の議題

1. 現在までの結果に関する討論。
A: 判定基準による判定が生物学的に真の ly,v を認識しているのか討論となった。
B: ly3,v3, 高度の脈管侵襲症例の判定一致率の検討の必要性が投げかけられた。
2. SM 大腸癌における検討に関する討論。
A: 今後海外病理医を含めて検討することが提案された。

【結論】

1. 現在までの結果に関する討論。
A: 判定基準による判定が生物学的に真の ly,v を認識しているのか討論となった。

判定基準による判定は生物学的に真の ly,v ではない。あくまでも一致率の向上を目指したものである点が、確認された。

B: ly3,v3, 高度の脈管侵襲症例の判定一致率の検討の必要性が投げかけられた。

今後の検討の必要性が確認された。また、現在までの consecutive なコホートで、希少な ly3,v3 の検討を施行することが困難であったことが説明された。

2. SM 大腸癌における検討に関する討論。
A: 今後海外病理医を含めて検討することが提案された。

さらなる検討を行うことで意見が一致した。

第 78 回 大腸癌研究会 病理委員会

会議録

平成 25 年 1 月 17 日

代表者: 落合淳志 (国立がん研究センター東)

参加者: 菅井有 (岩手医科大学) 庄盛浩平 (鳥取大学) 九嶋亮治 (国立がん研究センター中央) 八尾 隆史 (順天堂大学) 石黒信吾 (PCL Japan) 藤盛孝博 (獨協医科大学)

以下の検討項目に関して 今回の改訂における念頭事項を考慮しつつ検討した。

主な検討項目

1. 組織分類
 - a. 鋸歯状病変
 - b. 内分泌細胞性新生物
2. 切除標本取り扱い
 - a. 簇出
 - b. Ex
 - c. PN
 - d. 壁深達度

今回の改訂における念頭事項

1. TNM 分類、WHO 分類との整合性を取る。
2. プロジェクト研究の結果によるコンセンサスに配慮する。

1. 組織分類
 1. 鋸歯状病変

SSAP 等を良性腫瘍性病変に分類することは時期尚早と判断され、腫瘍様病変に分類することが確認された。

2. 切除標本取り扱い
 - d. 壁深達度

TNM 分類の記載を考慮してもう一度検討しなおすことが確認された。